



HYDROPHOBIC CURL SERIES

ハイドロフォビックカール シリーズ

RAMIDASU-SYSTEM manual 2020

ラミダスシステム マニュアル_2020.09

(特許番号 第4648492号)



株式会社 CUTICULA (クチクラ)

〒458-0821 名古屋市緑区鳴海町尾崎山43-698 TEL.052-627-0025 FAX.052-627-0059

コールドパーマが上手くいかない理由

デジパーのようなカールが出ないのですか？

レブリン酸を使ってドライ状態をつくり、水素結合を促します。

もともと健康な髪の毛は、疎水性と言われていますが、コールドパーマでは、最後まで水分を含んだ状態、つまりウエットで施術を行うからです。一方、デジタルパーマや縮毛矯正では、2剤塗布はドライ状態で行います。本来、髪は疎水性であることを考えれば、ドライ状態で水素結合を促して酸化を行うことこそが、カールの再現性を高めることにつながります。

そこで、レブリン酸を使用し、髪を限りなくドライ状態にしてから、水素結合を促せば、コールドパーマでもデジパーのようなカールの再現が可能になります。

コルテックスがダメージするとパーマはかからない？

ダブル還元技法でコルテックスのダメージの進行を防ぎます。

コルテックスのダメージは、髪の毛の弾力を無くし、パーマの持続性に最も影響します。コルテックスが壊れると、ミックスジスルフィド結合ができ、シスチン酸がつくられて髪は親水性に変化してしまいます。すると、濡れているときにカール形成はできても、乾くと形成の結合が成り立たなくなってしまうのです。

そこで第1還元では、コルテックスのS1、S2に還元が及ばないようにコスメタイプを使用 → ワインディング用のローションで、キューティクルの横ズレを促す → 第2還元でキューティクルのS2を曲げる というダブル還元技法で改善します。これにより繰り返し施術を行っても、ダメージの進行を防げます。

欲しいカールとロッド選定の見極めは？

テンションを3段階に分けて技術的に統一すればロッド選定は簡単になります。

キューティクルは、横に動きやすく、上下には動きにくい性質で、逆にコルテックスは、フィブリルはコイル状なので伸縮には強い。このことから、ワインディングの時のテンションが、かかり具合を大きく左右します。髪をロッドに巻く行為そのものでも、髪には応力ががかかります。

そこで髪のダメージや、太さに合わせてテンションをコントロールすることが重要になります。

・ノンテンション → 200~300g

・ミディアムテンション → 500~700g

・ハイテンション → 800~1,000g

と、3段階に分けることで、引っ張り具合を技術的に統一でき、教育が楽になります。毛髪に合わせたロッド選定ではなく、つくりたいカールの大きさのロッドでワインディングすることが可能になります。

毛髪診断とパーマ選定の関係がよくわかりません

毛髪診断キットを使って、的確なパーマ施術を提案できます。

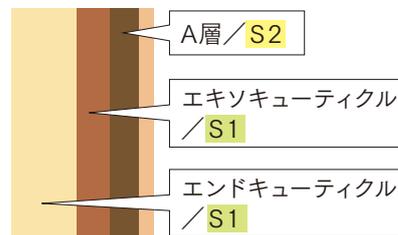
髪の太い、細いで、髪の構造も違ってくるので、パーマの技術も変わります。例えば細毛の健康毛にコールドパーマをしても縮るだけで、3D構造のウェーブや、カールはできません。その場合、髪が持っている以上の弾力をつける必要があり、キューティクルを熱収縮させて、髪のハリをつくらないと、ウェーブやカールをつけることができないのです。そうすると、選択肢はデジパーになります。キューティクルがしっかりしているかどうか、細毛やダメージで髪が親水性になっているかどうか、の毛髪診断が重要になります。

そこで、毛髪診断キットを使用することで、失敗することなく、お客様の髪に合ったパーマを提案できるようになります。

毛髪診断と還元剤の種類

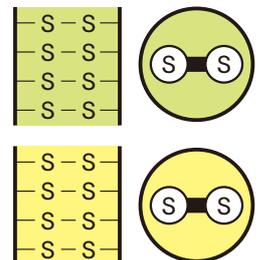
毛髪の種類

毛 髪		コルテックス	弾力	ツヤ、手触り
太い	90~100ミクロン キューティクル 7~10枚 → コールドパーマ → デジタルパーマ	パラコルテックスが多い (疎水性)	ハリ、コシ、しなやか さが高い カールに“プリン感” が出せる	普通、ゴワゴワ
普通	70~80ミクロン キューティクル 7~8枚 → コールドパーマ → デジタルパーマ → つけデジ	パラコルテックスとオルトコ ルテックスが程々に共存 (疎水性)	ハリ、コシ、しなやか さが普通 カールに“プリン感” が出せる	ツヤあり ツル、サラ
細い	40~60ミクロン キューティクル 3~5枚 → デジタルパーマ	オルトコルテックスが多い (親水性)	ハリ、コシ、しなやか さが低い カールに“プリン感” は出せない	ツヤあり ツル、しっとり



親水性SS結合 = S1

疎水性SS結合 = S2



還元剤の種類

還元剤	作用するシスチン結合		カール力
	キューティクル領域	コルテックス領域	
チオグリコール酸	S1	S1	★★★★★
システイン	S1 (アミノ基+)		★★
チオ乳酸	S1	S1	★★★★★
システアミン	S2 (アミノ基+)		★★★★★★
チオグリセリン	S2	S2	★★★★
ブチロラクトンチオール	S2 (酸性で作用)		★★
GMT Glycerylmonothioglycolate チオグリコール酸グリセリン	S2		★★
	S1 (加温)	S1 (加温)	
サルファイト	S1 (より表面)		★

コールド施術プロセス

① シャンプー

② 前処理 ダメージホールを修復。

クリアメイクピース1
(処理剤)



③ 1剤塗布/第一還元 CMCのS1を切る

④ ワインディング テンションの強弱が、かかり具合を左右します。

⑤ 1剤塗布/第二還元 CMCのS2を切る

⑥ 5~8分放置

⑦ 「M」を塗布

「Kiwami-3C/B MJ」(マレイン酸+レブリン酸+活性型セラチン配合)を
2倍希釈して、ロッドの上からアプリケーターで塗布します。

クリアメイクピース5
Kiwami-3C/B MJ
(髪質トリートメント剤)



⑧ 希釈用レブリン酸で水素結合を促す

「ハイドロフォビックアミノアシッド EX」を水で10倍希釈して、
ショート → 1リットル以上、ミドル~ロング → 2リットル以上
の使用を目安に還元剤を流し落とします。

ハイドロフォビック
アミノアシッド EX



⑨ 中間水洗

⑩ 自然放置5分

⑪ 2剤塗布 (2度づけ) 5~7分放置 × 2回。

ハイドロフォビックカール
RS2 (臭素酸塩)



⑫ シャンプー ロッドオフしてシャンプーします。

クリアメイクピース3
(CMCトリートメント)



⑬ 後処理 毛表皮を整え、手触りをよくします。

	健康毛	普通毛	ダメージ毛	ハイダメージ毛・エイジング毛
1剤 (第一還元) キューティクルの横ズレ	RS-NS 	RS-NS : RS1-1 = 1 : 1 		RS1-2
1剤 (第二還元) キューティクルの曲がり	RS2-3 (しっとり感) 	RS2-4 (しっかり感) 	RS2-5AG (ソフト感) 	RS2-3 RS2-5AG

デジタルパーマ施術プロセス

① シャンプー

② 前処理 ダメージホールを修復。新生部以外の部分に塗布します。.....

クリアメイクピース1
(処理剤)



③ 1剤塗布 1剤を塗布し、10～15分置きます。

④ 還元チェック

⑤ 中間処理 「クリアメイクピース1」を全体に揉み込む。.....

クリアメイクピース1
(処理剤)



⑥ 希釈用レブリン酸で水素結合を促す

「ハイドロフォビックアミノアシッド EX」を水で10倍希釈して、.....
ショート → 1リットル以上、ミドル～ロング → 2リットル以上
の使用を目安に還元剤を流し落とします。

ハイドロフォビック
アミノアシッド EX



⑦ 水洗またはバブリング やさしく、泡で洗うイメージ。

⑧ 100%ドライ ツインブラシでキューティクルを整えます。(シワ伸ばし)

クリアメイクピース2
(処理剤)



⑨ ワインディングローションを塗布

⑩ ワインディング/加温 85～90℃で10～15分、加温します。

⑪ 2剤塗布 (1度づけ) 5～7分放置。.....

ハイドロフォビックカール
RS2 (過酸化水素)



⑫ 水洗 ロッドオフしてシャンプーします。

⑬ 後処理 毛表皮を整え、手触りをよくします。.....

クリアメイクピース3
(CMCトリートメント)



	健康毛～普通毛 (太毛～普通毛)	ダメージ毛～ハイダメージ毛 (普通毛～細毛)
1剤	RS-D RS-D : RS-AC (クリーム) = 3 : 1 RS-D : RS-AC (クリーム) = 2 : 1 	RS-D : RS-AC (クリーム) = 1 : 1 RS-D : RS-AC (クリーム) = 1 : 2 RS-D : RS-AC (クリーム) = 1 : 3 

つけデジの施術プロセス

髪の毛が細い場合や、縮毛矯正やデジタルパーマの履歴がある場合に、つけデジ施術を行います。

1 シャンプー

クリアメイクピース1
(処理剤)



2 前処理

ダメージホールを修復。新生部以外の部分に塗布します。.....

3 1剤塗布

つけデジの場合は、アルカリ調整よりも熱調整をオススメ！

4 ワインディング/加温

45℃～60℃で5～10分加温します。

5 「MJ」を塗布

「Kiwami-3C/B MJ」(マレイン酸+レブリン酸+活性型ケラチン配合)を
2倍希釈して、ロッドの上からアプリケーターで塗布します。

クリアメイクピース5
Kiwami-3C/B MJ
(髪質トリートメント剤)



6 希釈用レブリン酸で水素結合を促す

「ハイドロフォビックアミノアシッド EX」を水で10倍希釈して、
ショート → 1リットル以上、ミドル～ロング → 2リットル以上
の使用を目安に還元剤を流し落とします。

ハイドロフォビック
アミノアシッド EX



7 水洗

8 2剤塗布 (2度づけ)

5～7分放置 × 2回。.....

ハイドロフォビックカール
RS2 (臭素酸塩)



9 水洗

ロッドオフしてシャンプーします。

10 後処理

毛表皮を整え、手触りをよくします。.....

クリアメイクピース3
(CMCトリートメント)



	健康毛	普通毛	ダメージ毛	ハイダメージ毛・エイジング毛
1剤	RS-AC (リキッド) : RS-D (クリーム) = 5 : 1 			

応用編 (1) 過還元によるビバリ修復

1剤での還元中に、モズク状態にビバリしてしまった場合の修復方法です。

ビバリ状態での水洗いは絶対禁止!!
水圧で髪組織が壊れ元に戻りません

1 ビバリ箇所の修復

「クリアメイクピース5 Kiwami 1」をビバリしている箇所へ塗布します。

クリアメイクピース5 Kiwami 1
(超高濃度 修復剤)



2 自然放置1~2分

3 「ピース3」と「MJ」を 1:1で混ぜて塗布

クリアメイクピース3
(CMCトリートメント)



クリアメイクピース5
Kiwami-3C/B MJ
(髪質トリートメント剤)

4 自然放置1~2分

5 希釈用レブリン酸で水素結合を促す

「ハイドロフォビクアミノアシッド EX」を、前半は10倍、後半は5倍に水で希釈して、2~3リットルの使用を目安に還元剤を流します。

ハイドロフォビク
アミノアシッド EX



応用編 (2) 過還元によるビバリ修復

他店での施術により、ビバリ状態になって、来店されたお客様への修復方法です。

1 ビバリ箇所の修復

「クリアメイクピース1」をビバリしている箇所へ塗布します。

クリアメイクピース1
(処理剤)



2 「RS-AC」をビバリしている箇所へ塗布。

RS-ACクリーム



3 自然放置3~5分

4 ビバリ箇所の修復

「クリアメイクピース5 Kiwami 1」をビバリしている箇所へ塗布します。

クリアメイクピース5 Kiwami 1
(超高濃度 修復剤)



5 希釈用レブリン酸で水素結合を促す

「ハイドロフォビクアミノアシッド EX」を前半は10倍、後半は5倍に水で希釈して、スポイトで塗布。2分程度置きます。

ハイドロフォビク
アミノアシッド EX



アフタートリートメント

コールドやデジタルパーマの後処理として、持ちと手触りをよくします。

- コールド、あるいはデジタルパーマの水洗終了後の後処理として

① ペリセア®を高濃度で配合した修復剤を塗布

1～2分、よく揉み込む

クリアメイクピース5 Kiwami 1
(超高濃度 修復剤)



② 18-MEA由来成分を超高濃度で配合した保湿剤を塗布

1～2分、よく揉み込む

クリアメイクピース5 Kiwami 2
(超高濃度 保湿剤)



③ 毛表皮を整え、手触りをよくするCMCトリートメントを塗布

クリアメイクピース3
(CMCトリートメント)



- 仕上げ

Memo
